明治廿四年十一月二十四日印刷
明治廿四年十一月二十四日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第貳拾四號

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會雜誌

第貳拾四號

目次

◎演説

◎体育に就て「前號の續」　北川乙二郎君

◎齒の養生法　高山紀齋君

◎衛生叢談「前號の續」

◎本會錄事

◎會告數件

◎本會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして衛生の健康を保持するの方法を講究し且社會全般の幸福を增進するにあり

一本會々員たらんと欲する向ハ族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込あるべし

一本會々員を分て終身會員特別會員通常會員書生幷男子賛成員とす

但終身會員ハ入會の節拾圓以上を収むるもの特別會員は毎月貳拾錢以上を納むるもの通常會員は毎月拾錢を納むるもの學生は毎月五錢を納むるもの男子賛成員は毎月拾錢を納むるもの

一本會講談會は七月八月を除くの外毎月一回通常第一土曜日午後一時より開會し會員ハ勿論會員知己の傍聽を許す

一本會雜誌は毎月一回發行し會員に頒ツ

一會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しあるべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌　第貳拾四號

講演

◎体育に就て（前號の續）

北川乙二郎君述

婦人ハ家に居つて家を整理め、男子は外に出で力役に從事し、活潑ある運動をするのが宜しい。日本の婦人方の優美にして實にやさしく裕なる性質ハ誠に宜しい、又此精神を存して置かぬ時は、日本婦人の價値の落る斗りでなく、大にしては日本國の害にもなるから、此優美なる點を存して置きたいと思ふ殊に親子間の情に於ても實に云ふに云はれん情が親子の間に籠ッて居るが西洋に至ると實に驚くべき事實が澤山ある、第一に自分の親が早く死ねば親の金が自分の金になるから早く死ねば好い杯と云ッて親や兄弟の死ぬのを喜ぶ……まさか口に出してハ云はないでも、心の中ではそれ位ひに思ふて居る人も幾らもある歐羅巴にはそれ位ひに輕薄なる極端の習慣も隨分ある又それ程でなくても親子の間を烏渡と見ると親密に暮して居る樣では有るが、或る部分ハ親の力でも子の樂みは第二にして、自分の樂みを先きにするのが大變有る、第一西洋の婦人が自分の容色の惡るくなるのを厭ッて、余り自分の子供に乳を飲ませたり何かする事を好まないソして、子供に洋を飲ませたり何かする事を好まないそうして子供をうるさがつて子供を育てるには牛乳位ひ飲まして置けば好いと云ッて、親しく敎育をしないのが歐羅巴ならしての習慣で有るが、一体人間を養ふのには人間の乳を以て、親自身が養いなければならん、又是れが御婦人方の一ッの樂みにもなる。決して自分の子を自分で育てずに、人に突き渡して構ハないで居るのも婦人方の不心得でも有る、又我々人類生活上

の原則にも違ふ、如何なる鳥獣と雖も、自分の子を育てるには自分で養ッて居る、況んや万物の靈たる人間に於てオヤ。禽獣虫に對しても實に申譯が無い斯う云ふ事の無い樣に親子相愛し相樂むと云ふ法則を守りソコに歐羅巴の生活上の好い所を捏ね合せて完全無缺なる新らしい風習を造られん事を熱い希望致します。歐羅巴の生活法を以て來れば、其中で日本の衣物を着てからに日本の家の中に靴を穿いて住まッて居る譯にも往かん抔と云ふ人も有るが、併しソウ云ふ外形上の事はドッでも宜しい。「西洋の風は好い、何でも西洋でなければいかん、西洋の生活法ハ運動するのに容易く出きて居る、凡て經濟上時間を費さず、至極適當して居る」と、云ッて凡て西洋まる出しに西洋の猿眞似をする人は、多くは西洋の事が眞に好いと思ふのではなく、只珍らしい事を眞似する丈けて有ると思ふ衣服の事にしても昨日まではハ西洋人の風は誠に好いと云いて、我も人も眞似をし、西洋の風にしなければ交際社會にも出られないと云ふ樣に流行したのが今日でハ洋服は、往けない、矢張日本服が好いと云ッて、今まで着た人も廢して仕舞ふ……ドッも一年間ソウ云ふ風に風習が非常に變化して來るのは誠に憫れなる事で、日本人流行事に移り易い輕率なる心には實に慨歎に堪へません。初め洋服を着たのも如何なる點から着たのであッたか、洋服ハ何處の点が宜しいと思ッて用ゐたのか、其邊には少しも考へを及ぼさずして……（決してアナた方にはソウ云ふ事は有りませんと思ふが世間の洋服癖の人に申すので有りますが、洋服の利益は何所に在るか、洋服を着ると何處に便利が有るかと云ふ精神から着たのでなく。一時の流行に連れたのですから、流行が變ると自分も換へる。西洋の風習は何處に好い處が有るか、又日本の風習は惡るい

から惡るい處を改良し、西洋の風は衛生的に斯う云ふ便利が有るが、日本の風は道德上に斯う云ふ惡るい所が有ると云ふのであッたならば、決して今日の樣に急に變る事は無かッたので御座いますが　詰り衣服抔は兩方ともに好い處も惡るい所も有るので、コルセット抔は惡るいと云ふ人も有りますけれども、斯う云ふ外形上の事は成丈け運動仕易い樣に改良し、日本の高尚なる優美の風を存して置き男女和愛し親子相樂み、地球の圓るきが如く、圓く暮すと云ふに基き注意なすッて、御改良なされたならば最も日本の都合好往で有らうと思ふ。我々男子に於ても此法を取るのが肝要で有る。男子は衛生の演說もし、衛生の事に就て饒舌ッては居るが、男子よりは衛生上に親密の關係を持て、家の中を左右する所の權力を持て居る所の御婦人方に於て專ら衛生上に注意下だされん事を希望致します。」衛生上に就て此方針は歐羅巴の善い處を擇り惡るい所を取り除けて、ソして一つの新らしい風習を造ッて、今日新年早々から每年々々正月ごとに、益々健康なる顏を見合せると云ふ事を致したいと思ッて、遂に以上の話らない事をお噺し致した次第であります。

◎齒の養生法

高山紀齋君口演

私は今日依賴に應じ初めて此席にてお話を致します、お話の前に一寸御斷を申上置ます、高山紀齋は口中專門の醫者だから定めし齒も丈夫舌もよくまわり、何か面白く話すに違いない抔と思召しては大に困ります、尤も平生人の齒の痛みや訥辯で舌のまわらぬ、位は隨分直しますが、自分の辯舌のわるいのは誠に紺屋の白袴でどうも直す閑がありません、其上に此頃風邪にて發聲が困難ゆへ尚更御聞取にくいか

も知れませんが、精々お分り安いように衛生上歯の養生の方法の誤りがある事をお話申します、併し本會にでも、御出席なさる方々には少ないかも知れませんが、先づ世間一般の景况を思召してお聞き下さい。

且つ本題に入る前に日本の人は兎角歯を麁末にする習慣があります、先其の來歴から申しませう。

全體日本人は是まで衛生上の注意が甚だ疎略でありましたが世の開化に從ひて衛生會も澤山出來まして人々之に注意する事となり、殊に貴婦人方が此衛生會をお設けになりしは、誠に結構な事で益々盛大を祈ります、斯樣に開けて參りましたのも實は人智が進みて、命と云ふ者は至極大切なと云事が知れてまいりました印で御座ります。

併し人の身體の内にても、眼や鼻や其他の部分に比べますと、まだ〱歯は粗末にいたす者が多くあります是を申すも一種の習慣で先祖より粗末にするくせが人々にしみ込みて居ます、加之昔日本には歯醫者と申す者なく、鄙賤の歯拔入歯師杯俗に云ふ野師の類にて、學理の事は少しも知らない故でありました、然るに先年内務省にて歯科醫と從前の入歯師歯拔きの類と區別を付けて、段々歯科の位置が高ふなり普通の内外醫師も、専門の歯科醫も學術さへ有れば、別に尊卑の差別はないようになりました、併し昔の入歯師の類もまだ澤山にありますゆゑ御注意なさらぬと、衛生上の害になる事が有るかも知れません。

凡て人間の歯は體の内まて一番堅い強いもので中々骨や其他のかたき部より、餘程丈夫で一寸考へると中々損じたり腐れたりするような物ではなく、又舌や鼻は餘程柔かくて損じ易すそうに思はれます、然るに舌がくさり或は鼻が落ると云ふ事はめつたにあ

りません、唯悪い病を引受た時には鼻に損所が出來る位な事にて、誠に稀な事あるに、其硬い丈夫な歯がくされ或は損じまするは實に多くあります、是は歯には回復機能と申す働がすくないゆへ、少しにても腐り掛れば段々に多く腐る性質のものでありますす、此事は能く御記臆なされますがよろし、又歯の病ハ何人に多いかと申すと、開化した人種に多い言ひかゆれば上等のお方に免れ難い不幸です、しかし免れ難い病なら仕方がないとお斷念にハ及びませぬ、御注意次第で随分豫防する事が出來ます、夫ゆゑ養生が第一と存ます、其養生法に就て世間の人々に大なる考へ違ひのあります事を是よりお話致します。

先づ子供衆の歯の發生の事から初めましよう、小兒の生れまして凡そ六七ヶ月より順々に月を追ふて生へますが、其初ハ下の前歯より生へて夫から上の前歯と云ふように次第に發生して、三十六ヶ月間には小兒の乳香歯が揃います、此發生期の間にはよく脳病を起して、引付たり腸胃に申分が出來て下痢したり致します、能く氣をお付けなさらなければなりません。且つ難生歯の爲めには度々小兒の命を落す事がありますゆへ、小兒の歯の發生する頃ハ大切なるものと思召すがよろしい。而して其數は上に拾枚下に拾枚合して、二拾枚のものです、之を乳歯と稱へます、此二拾枚の乳香歯ハ小兒にとりてハ大層大切のものです、しかるに日本の親達は何とも思はぬ人が多くて、ナニ……………小兒の歯だ今にもよい歯と替る…と少しも注意しない況して、之を保護してくさらぬ用心抔には一向頓着せぬ人があります、是が私の申す歯の養生の誤りの第一ヶ條であります。

此乳香親ハなせ大切なと申せば小兒が六七歳になります頃まで、食物を咀嚼して消化の助けをなす緊要の者です、殊に小兒は大人より胃腸も弱いから能く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此乳呑齒は保護して置かぬと、不消化の食物を「なま呑み」にしまするから腸胃の病に罹り易くなります腸胃がわるくなる處より種々な小兒病を引起す事は常に多くあります。其時ハ親さん達ちも夫れ醫者夫れ藥よと色々に心配せねばなりません、其心配のない内に少し位は面倒でも、氣を付る方が餘程益であります、是ハ親たる者の義務かと存じます、唯子が可愛とて菓子計り與へるのが子を愛すると謂ふ者ではありません。

今其養生法を申せば先づ乳をのまします頭より、小供の口内を清潔にしておくが一番で清淨な布切れを指先に捲き付け、清水にひたし、乳を呑みたる後や夜分寐る前にハ口の中と齒の内外面を奇麗にふき取る事を忘れてハありません、小兒の口内ハ兎角不潔になり安い、もし乳の分子が口の中に殘りて居ますと乳酸と申す一種の酸が出來ます此物が齒の土質分を溶解してくさり初めます、もし一本の齒が腐り初めますと次へ〳〵と段々傳染して終には一本も殘らず皆な腐ります、之を日本にては味噌齒と申して小兒の齒は斯くなるものゝように思ふ人もあります、しかし是も注意次第で防ぐ事が出來ます其證據には外國の子供にハ此味噌齒がありません、皆次に生へる齒と替るまで奇麗に揃ふて居りますどうか日本の子供の乳齒も健全に揃ふて齒替りまで無事で置きたい者です、小供の健康にとりてハ齒ほど大切な者はありません　此齒が腐ると可愛そうに痛くて難義をします、又た食物を嚼むにも齒が痛いから能く嚼まずて飲み込みます、之を俗に鵜呑と申し升　此が身體を後來わるくする一ツの原因となります能々御注意ありて清潔法をお施しなさい、子供の時から食物をよく咀嚼するの習慣は一生の内にはどの位利益があるか知れません。

先帝崩御になりました獨逸の天子第一世「ウヰリヤム」陛下の長壽なされしハ、母公が食物をよく噛む事を教へ玉ひ、パン杯を新聞雑誌の間に狭み置き一ツの食物より次きの食物ヘ移るまでに字や繪をながめ、其間に能く咀嚼するの習慣となされました故で有ますそれで此帝も晩年に御自分の長壽ハ全く母公の賜なりと仰せられました、其外英國の女皇「ビクトリヤ」陛下の保嬰の道を識されしなど、皆文明の邦國にてハ家庭の養育法がよく行届いて、萬民の君たる人までも善く衛生に注意し玉ふハ、誠に感佩の事と存じます、どうか日本も只表向きの眞似ばかりでなく、眞に其精神を學んで教育ある貴婦人の方々より、家庭養育の法を改めて、唯乳母や下女ばかりに打ち任して置くような、惡風を止めたい事と考へます。

最早や小兒が五六歳となりましたら、朝夕小さき刷子を使ふ事にならし口中を清潔にする事を教へますがよろしい、如何に小供でも物心の付いた上ハ清潔にするは不潔なよりハ心地がよいものですから、段々好んで遂に習慣となり、成長の後も自然口中の不潔を嫌ふ第二の天性となります、此習慣が一生の間には餘程歯の健全を助け、衛生上の利益があります、以上申し述べました事が疑はしくも實行なさつて一ツお試なさい兎角論より證據です。

夫から歯が替る時のお心得を申述べましよう、子供の歯替りの時期は隨分大切なもので、本邦にては昔から子供の歯替りに無頓着でした、夫故不規則に歯の重なり合ふて居る方が澤山あります、余儕此の亂杭歯なるものハ衛生上甚だよくありません、何故なれば重り合ふたる歯は、成人の後其歯が弱くそして腐り易く抜け易いゆへ、一生の内衛生上甚だ損害を受けます、先つ歯の替る年月を一寸申しましよう、

抑も子供の齒の替る時を齒斷期と云ひまして、六七歳から始まるもので、先づ一番に下顎の奥に大きな奥齒が生へます之を六歳臼齒と名付ます元より子供の健康と不健康とに因て少し位は早い遲いの有り升が、大概滿六歳には此奥齒が生へます、此齒と同じ頃に下の前齒が替ります、夫から上の前齒も次第に替りて大抵六七歳より十二三歳の頃までに順々に替ります、尤も智齒俗に「親知らず齒」と申すハ十八九歳になりませんと生へませぬ。

凡て此永久齒の發生は、乳吞齒ほど困難ハありませぬが、併し其生へ出る位置ふよく氣を付けねば、前に申す乱杭の樣に重り合ふた齒になります其時ハ顏の貌を惡くいたし升計りでなく、一生の間大層衛生上の損になこります夫故米國の通り六七歳より十四五歳までの間ハ時々齒科醫に檢査をお頼みなさるがよいと存ます、又重り合ふた齒を拔き取る時にも、或は乳吞齒と成齒と取違へて拔く事がありますゆゑ、無學無術の者にハ任されません此間違ひと申すも、乳齒ハ齒並よく列んで次に生へます、永久齒ハ必ず内側などに重りて出ます事がありますから、一寸素人考で反て本當の成齒を拔く事があります是は決して惡口でハなく實際是迄度々見聞いたした事がありますから御注意の爲め御咄しいたします、又乳齒齒を拔くにも必ず拔くべき歳月の定期のあるもので、何時拔いてもよいと云ふ譯にはまいりません、餘り早く齒きますと拔の發生を遲くし、其上顎骨の發育を妨げ顎の形状を醜くいたします、又餘り永く拔かずに置きますと成長してから齒並が惡くなります、齒並の惡いのハ、容貌を惡くし、又齒の重り合ふた部か腐りやす、是ハ齒の間が不潔になり、色々の食物杯が留まり、酸化して齒の石灰分を溶化するゆへであります、ろして一齒か腐敗しますと隣りの齒に

傳染いたすは乳齒の時お話し申した通りで大切の者であり升。

扨て此齲蝕の原因をお話申せば、六ヶ敷き病理の話になり、餘り此席に要用でありませんから簡畧に其一二を申します、全体齒ハ石灰分より成立ちて酸類とは極て中のわるき者にて、若し酸の中に投けたる齒を浸して置きますると、段々とけ柔らかくして、仕舞ます、夫故若し齒が重りて屑りますと其間に食物の屑が止まりて終に酸化して齒を溶かし、始めます此が腐る第一の原因となります　唯腐ると申せば直に全齒を失ふ樣に聞へますが、抑も齒の腐る初め肉眼にては、見る事の出來ない位の、針にて突きたるかと思ふばかりの細孔が幾個ともなく出來て、漸く次に其小孔が大きくなりて、穴とも云ふほどになり口の中の粘液や食屑が其穴に留り易くなり、酸の製造所を口の中に設けたると同じく、段々其穴を大きくして胡麻粒位の穴になりますと、間もなく小豆の這入る穴位に大きくあるのハ少しの間です。

齒は中央までくさり神經に及ほさねば疼痛が起りませんから世間の人ハ痛みの無い内ハお氣が附きません、是が甚だ嘆かわしき事にて少し位の腐れは療治もし易く、療治した後も永く丈夫に保存が出來ます、然るに兎角痛みの無い内齒科醫に檢査などを托する、人ハ少ないと思いまそ、外國の人々ハ痛の有無に拘ハらず、大概六ヶ月毎に檢査させます、此法ハ實に一生の内衛生上最も利益があります、兎角お若い内には齒の一本や二本位は心に掛けぬ人か多くありますが、次から次へと齒の無くなるほと心細い事ハありません保護する時を遲くれ、老年に至りし上と一本に千兩出しても天然の齒の樣にまいりませぬ、其時にハ始めて若い時より養生に注意すればよかたと御後悔は必定なれ共、最早十日の菊で何の役よ

も立ちません。

又歯がなくなると腸胃の病を起し、夫より種々の全身の病氣を誘起しまして、終には病氣の問屋となりて、鬱々日を送り此世の快樂を享くる事の出來ないのは、誠に氣の毒な話であります、只今まで歯の腐る大略を述べましたから、是より此豫防法の事をお話致しましよう。

豫防法は歯の掃除をよくして、清潔にするのが緊要で、何も別に六ケ敷き事はありません、唯朝夕「ハケ」をよく御使ひなさい、歯刷を使い付けぬお方は房楊子の方がよいと、思召ますが夫れは間違にて、房楊子の先きは損じ易く其一部が、歯と歯の間に殘る事があります、夫より知らず識らず歯と齦肉とを害します、西洋の歯刷は此害がないのみならず、歯齦を健康にする効能があります。

使用法は歯の表面、内面、咀嚼面、此三面をよく清潔になして置きますと、歯が腐らぬ上、歯齦が硬く丈夫になります、人に據りて西洋楊子は歯齦が痛い血が出る、肉が減るなど小言がある、是は御尤千萬な事で私も然へがあります、併し夫は平常歯刷を使ふに馴れぬ人が、俄に用ますと血も出ます、痛みもしますけれども其痛むのは齦部が健全でない印ゆへ、先づそろそろ二三週間歯刷を使ふて御覧なさい、漸次に齦肉も硬くなり痛もなく、血も出ないと申すようになつてまいります。凡て人間の體は使ふ部分が丈夫になりますもので、飛脚屋は足が達者になり、鍛冶屋は手の力が強くなると同じ事であります夫故若し一室に閉居して運動も何もせずに居て御覧なさい、身體は總て弱くなりて仕舞ます。口中も其通りにて若し大切にする考へにて當らず障らずに捨置きますると、弱くなりて粘膜や齦肉が軟かくなりて少しふくらみ指先きが一寸あたりても血が出てむづ

揺いような心地かして参ります、是も養生法を誤るの一ヶ條で有ります、實は可成能く歯刷にてこするのかよいので、其刺衝にて齦肉の中抵抗力を起してまいり、硬くなりて歯の根に固着する様になります、是は衛生上實に大切な事ですから、是迄お使ひなさらぬ、御方は使つて御覧なさい、必ず効能か現はれます、夫から今一ツ此「ハケ」を平常に用ひになりて居ます方々の御注意までに申ますか、西洋の「ハケ」を御使用になるにも使ひ様の悪くては幾度お用ひなされても役に立ちません、能く奥の歯まで刷くようになさい夫故大形よりハ小形のものかよろしいそして　朝起きた時パかり御使用なさる人か多いか夜分寝る前にも今一度御用ひなさる方か餘程きゝめかあります、併し餘り効能かありてお歯か健全になりますと、世間の歯醫者か…………困るかも知れません。

全体歯の腐れたり悪くなるのハ、晝間より却て夜中に多く悪るくなります、何故なれば口内及歯の間に種々な汚物か挾まりても、晝の内は物を言ふには舌か働き、笑たり、欠伸する時は、唇か動き、始終筋肉の運動を絶ちませんから、縦ひ少し位の食屑か歯間に止まりても、自然と脱除する事かあります、然るに夜分は此諸筋の運動か全く止みますから、粘液や食物の食屑か歯間に挾まりたる儘翌朝まで、留まり、酸化して歯を害します、

又此の西洋歯刷を御使用なさる、兼て歯磨粉の御注意かあります決して從來の和製の歯磨粉をお用ひなされてはなりませぬ、夫は粉の性質か粗糙なれば歯の上皮なる大切の琺瑯質を減らします、是れ中々緊要の事にて一寸考へますと左迄の害は無いようですが、此琺瑯質と申す歯の上皮の堅いものがなくなりますと、歯ハ容易に薄くなりてまいります、故可成

欠け齒磨粉は御撰みなすつて口の中で溶けてしまうような粉でなければよくありません。

食後に小楊子を使ふ習慣は、至極よい事にて、齒間にある食屑を取り除きて、淸潔にするゆへ、頗る功能があります、併し此楊枝の餘り太く大きな小やうじや金類の如き堅過ぎる小楊子は却つて害があります金銀にて製したる　小楊子を使へは齒の頸部を毀々減らして惡くいたします、或は齒の位置を變じますゆへ可成軟かくして、丈夫な質の物がよろしい、特に鳥の羽莖を切りて製したるものが一番よろしい、又食事をしました後に、含嗽をなさるのも至極よろしい、併し餘り養生々々と申しても平日藥にてお洗ひなさるには及びません、微温湯が一番よろしい、是丈けは實行して毎日お守なさると齒醫者に御用が……少ないやうに成ます、事はお受合申ます……

豫防法は是迄に致し此より齒が惡くなつた時のお心得を述べましよう世間の人齒の療治と云へば金銀にて齒を粧飾するものと思ふ人がありますが實に困り入ます殊に平生人の、病氣をなほす醫者の内にも齒醫者は人の齒を金銀にする者抔と思ひ違ふて齒醫者の眞面目を御承知ないには驚きます、先づ齒科の眞面目と申ますは、人の齒の天然自然のものを可成丈保存するが第一にて、決して金銀を以て粧飾すべき者でない事は勿論の事にて、米國の齒科術は世界第一等の進歩と申ますが、其米國の教育ある婦人どもは、可成前に金齒の光りをあらはすは甚だ嫌ひます。夫故齒が損じても、齒と同じ色のものにて直すのを好みます。奧齒の方は齒の性質と腐れの多少によりて、銀なり金なりを撰みます、強ち銀より金か丈夫とばかりは謂へません、其齒の性質と病症とによります、然るに日本の人は反對にて、人の目に付く所は可成金にて塡め、大事の奧齒はとんと直しもせず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

揩れない方の多くあります、又歯と歯の透き間かある部分に、金や銀を充めて居る人かあります、是は衛生上甚だ危害の恐かあります、夫故治療の事を心得たる者ハ決して致しません、凡て歯と歯の間は少し位すいて居りますのが其歯を腐さらせぬ助けとなります、餘り歯の密接して居るものハ、洋紙一枚の厚さ位すかす術を施す位のものです、夫故若し二本の接した部の腐る時ハ、一本宛別々に充めて其間を少しすかして充めるのか法則です、左なきときハ小揚子が通らず掃除が行屆かず、反て腐る憂があります、米國にてハ若し他人の健康を害する所業を爲す者があれば、直に罰せられます、加之人民も能く醫者を撰ぶとを強めます「誠に緊要の事であります、併し米國のように開けた國でも隨分山師などがありイ「ダイヤチンド」や寶石を以て歯を製そると言へば稀にハ頼む人のあると申そが、是ハ歯の養生法を誤解して居るからでそ、先頃も或る歯科の機械を賣る商人の内へ、米國から「ダイヤモンドセメント」と申す粉がまいりました、此粉は元來歯の腐孔に充めますもので、夫れが參ると直に賣切れました、何故たろうと聞て見ますと、此粉の名を「ダイヤモンド、セメント」と申ますから結構な「ダイヤモンドの、粉を入れた「セメント」と誤解して諸方で遣つたと云ふ話があります、しかし此粉を使用しても、一切「ダイヤモンド」の光りも何もない、是ハ不思議と後に學識のある人に聞たら、夫は唯其粉の名だと分りました、此位の間違ハ他人の健康をば餘り害しませぬけれと、治療上衛生上害ある事はよく注意なさるが緊要です。先刻も申升金歯の事に付き米國の役者と日本の役者の考へ方が違つて居ります、米國にては人の大勢集まりまする場所で演舌でもする人か、或は役者抔ハ決して前の歯に金などピカ〳〵さ

せませぬ、如何となれば大勢人の集まりたる場所にて、金歯程目に付くものはなく、第一其容貌を凄く怖く致し、第二に芝居などにて笑ふ情態を寫そうとしても、夜中など「洋燈」や電氣燈の光線と、金の光りとが映じて横から見ると其顏が全く怒て居るように見へ、自分の移ろうと思ふ姿に反對の容を顯はします、斯樣な事までにも中々能く心を附ますにも感心致します、日本の藝人社會の有樣は役者藝者などの中には、完全無缺の歯でも、殊更前歯を金にてピカ／＼するために、自然の容姿を害する事には、一切氣が附きませぬ、是等は無學文盲の金看板と申しても宜しひ、斯條に申ても、又た素より歯にとりて、金にて直す歯もありますは勿論なれば、一般世間に考へて居るようなものでもない、又歯醫者の方も實は歯を直す時、其人の容貌を損害せぬよう、皮へ歯の色から眼髮の色合までよく注意して、其人に適當して容姿を損せぬ樣にするが、本當の歯醫者にて唯人の歯を金色にして悦ぶのは、亞米利加などにて「チンカー」と申して飾屋の仕事です、又口中專門と申しますと誠に區域が狹いように聞へますが、歯醫者のする業も中々澤山にて、皆樣が通常御存の外にも歯並の惡いのを直し、歯を植へ替へ、根ばかり殘りて居る歯を天然の歯のように繼ぎ、上顎に穴がありて鼻に聲音の漏るのを療治します、其外種々の術がありまして中々一寸數へ盡されぬ程あり升、是よりは歯牆の事を少しお話致します。

（以下次號）

衛生叢談（前號のつゞき）

肉類は前に述べました通りの養ひ分がありますが、豆類は窒素がたいそう多く、たべ物のうちで養ひお

ゝきみとハ、第一等のものであります、そうでありますけれども　外皮わこあれが少しあしくありますから、運動のすくない人ハ、一時に澤山用ゐてハなりません、豆をもつて豆腐をこしらへますが、雞卵や、乾略などのかはりに、なりますよき豆腐に塩をませて、こしらへました者は、牛乳をもつてこしらへましたる、新らしき乾略にそのあじわひがよく似てゐると申して、西洋人もたいそう嗜き好みます、雞卵の白みなどゝちがひますところは、僅に硫黄と燐とを含まないばかりのちがひでありますから、人のからだを養ふに最も大切なるもので、これまで我邦でハ僧尼の精進物ばかりをたべてをりまして、よく健康でありましたのも、考へて見まするに、平常に豆腐と味噌とを用ゐたるによることゝ申しますが、なんと寳重なものではありませんか故よくその食べ物の養ひ分をハかり、いろ〳〵のしなものを取り交せて、獻立をつくらねばなりません、今衛生試驗所にて取り調べたるところの、保健食料の標準を見まするに日本人 体重十三貫八百三十目）に適したる養ひ分の目方は蛋白質貳拾五匁五分六厘、脂肪五匁參分貳厘、含水炭素百十九匁七分九厘合計百五十匁六分七厘、をもつて、からだを丈夫にすることができます、されどもいかなる食べ物のうちにどの位ひの養ひ分をふくんでゐるたとか知れませんから、こゝに其貨物の獻立をつくり、皆樣の食物とくらべて、取捨改良するの標準となさんとし、左に一日一人につきての食べ物の養分料と其代價のあらましをしるし、御參考に供します。

第一例

鷄卵二個、味噌五匁、小松菜二十匁、胡蘿蔔十匁、百合二十匁、鯛三十匁、竹麥魚三十五匁、白米四合

以上の食物中に左の主成分を含む

蛋白質二七二七　脂肪五一八　含水炭素三〇一八

右食料金十錢四厘

第二例

牛乳一合、味噌五匁、葱二十匁、馬鈴薯二十匁、菜菔十五匁、牛肉六十匁、白米四合、

蛋白質二五、八四　脂肪七、五六　含水炭素一二〇、五六

右食料金十五錢九厘

第三例

豆腐二十五匁、豌豆十五匁、豆腐皮三匁、比目魚二十五匁、胡麻油一匁、鷄肉三十匁、味噌十匁、白米四合、

蛋白質二七、四〇　脂肪五　二四　含水炭素二七　三七

右食料金八錢四厘

（以下次號）

本會録事

◎十一月例會　十一月七日第一土曜日午後一時より京橋區宗十郎町七番地大日本私立衛生會集會室に於て開會す此日も天氣清朗青空洗ふが如く温暖体に適し或は散歩に或は音樂會に實に秋季の好時節なりしを以て出席會員僅々貳拾餘名なりし當日色川圀士君出演せらるゝ筈なりしが　皇后陛下の盲啞學校へ行幸遊ばさるゝに際し遂に不參の趣申越れたり依て木庭榮君居室の談あり日本の習慣として光線の能く射入する所は客間應接所等に充つれとも日常起臥する緊要の居室に却て最後光線の射入惡しき所を用ゐるは甚だ衛生の法に適合せざるを以て之れが改良を爲さゞるべからず云々次に大澤謙二君（なくてはかなわぬ）の講演あり午後五時散會せり。

◎會告

◎例に依り本會々員秋季懇親會相催し可申之處岐阜愛知等震災の慘状見聞に堪へず聊か之れが救助を圖らんと計畫致居り事務多端に御座候間懇親會の催し無之候間左樣御了承被下度候

◎寄送冊子贊成員足立寛君ゟ同君の赤十字社有志看護婦人會に於て談話せられたる育兒談一冊本會附屬保育園へ寄送せられり御厚志の段玆に鳴謝す。

十一月中入會者左の如し

◎青木ちか子……

◎十一月中本會々員宿所轉居は左の如し

「姓名位次不同」

萩原ろう子　赤坂區新町三丁目二十一番地へ

豊住好子　芝區三田功運町三十九番地へ

松本竹代子　小石川表町百九番地へ

仙波もと子　荏原郡上大崎村四百四十四番地へ

末岡さだ子　牛込區南榎町三十三番地へ

岩橋とき子　麹町區永田町二丁目六十九番地へ

岩永さと子　本郷區曙町六十九番地へ

堀ノやう子　本所區龜澤町十一番地へ

廣告

衛生食物調理法研究會暫時休會致居候處本月ヨリ定期之通リ開會致候間規則御覽之上御來會被下度候

大日本婦人衛生會附屬
衛生食物調理法研究會

◎稟告

去る一日より本園を開き保育依托者の賴談に應じ來りたるが入園時非常に虛弱なる小兒も今や強壯活潑となり人をして欣美に堪へざらしむ賴談せんとする者は來園の上該小兒幷本園の趣意方法規則等に就き熟覺あるべし

麹町區五番町十五番地
大日本婦人衛生會附屬
保育園

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉廣告

世に婦人雜誌あれどもあるハ高尙に失しあるハ卑近に流れ其中庸を得たるもの少しろの中庸を得たるものは

日本婦人

の一あるのみ此雜誌は專ら婦人に適切なるものを選ひて載するものにして其項目は

●日本婦人　●傳記　●家政
●叢談　●文苑　●小說
●寄書　●餘興　●批評

等にして倘序を追ふて改良し眞にわが國の婦人の良友とならんと欲するものなり

○毎月一回十日發行○定價三錢郵稅五厘
○十冊前金廿七錢郵稅五錢

發行所　岡山縣岡山市大字上ノ町六十一番邸　同胞社
賣捌元　岡山縣岡山市大字上ノ町六十一番邸　細謹舍

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候
會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員　太田いく子
鈴木まさ子

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行人　東京麹町區三番町六十七番地　樋本善治
印刷人　東京麹町區上三番町十八番地　八木吉六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治廿四年十二月廿七日印刷
明治廿四年十二月廿七日出版

婦人衛生會雜誌

第貳拾五號

（非賣品）

私立
大日本婦人衛生會

大日本婦人衛生會雜誌

第貳拾五號

目次

◎演説

◎失題　宮本仲君

◎本會録事

◎會告數件

◎本會規則摘要

一本會の目的ハ汎く婦女子をして衛生の健康を保持するの方法を講究し且社會全般の幸福を増進するにあり

一本會々員たらんと欲する向は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込あるべし

一本會々員を分て終身會員特別會員通常會員書生幷男子賛成員とす

但終身會員は入會の節拾圓以上を收むるもの特別會員は毎月貳拾錢以上を納むるもの通常會員ハ毎月拾錢を納むるもの學生ハ毎月五錢を納むるもの男子賛成員ハ毎月拾錢を納むるもの

一本會講談會ハ七月八月を除くの外毎月一回通常第一土曜日午後一時より開會し會員ハ勿論會員知己の傍聽を許す

一本會雜誌は毎月一回發行し會員に頒つ

一會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しあるべし

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第廿五號　明治廿四年十二月廿六日發兌

失題

宮本仲君

私ハ加藤君の小兒の「食物に就てと云ふお」話しの始らぬ前、即ちお中休時間に甘い御菓子を差上げる代りに、何なりと鳥渡御話しを仕ろと幹事さんよりのお誂てありますす故に、不得止不遠慮ながらまづい演説を致します。だから取りも直さず私が御菓子の名代に爲つたやうな譯で、甘い代りの不味者ハ些と貴婦人方には召食られますまいから、御迷惑で御座いませうが、前には三嶋、通良、君から大變結構な御演説か有りて後にハ加藤（照麿）君が小兒の食物に就て有益なる御演説を爲さる筈と想像致します。其間の事なれば一寸ハ辛抱を願ひ升」偖て今日は幹事さんから本會の實况を皆様に御報告なさる筈だそうで御座いますが、委しく御報告あるには時間も隨分懸りますし、又貴婦人方も天氣の悪いのに御出掛けでしたから、早く御歸りにならなければならん御方も澤山御座いますす様に見受けます故、實况の報告ハ總べて雜誌に讓つて其大意丈けを私から一寸一言申し上げる樣にとお命しにありました　一体此總會の席にて報告あるべきとハ、本會が如何に盛んになつて居るか、或ハ衰微して居るか、或ハ本會でハ此迄會員幷に社會に、ドレ丈けの實益を與えて居るか、或は害を爲して居らぬかを、云ふ事から始め會員の進退乃ち會計庶務一切の事共、判然する樣に出來て居るので其報告の判然と有之は何程の益になるのと云ふに、大屑の必要てす、假之は婦人衞生會ハ大屑盛の樣に見之ても、其實は若しも衰微してあらぬか裏て來るやうで有りまするなれば、相當の御助力をな

さらんければならん、又皆様に有益の様に思はれても万一會員に不便や世間に害を爲して居るあらば、其不便や害を除くやうに、御勘考をもなさらんければならぬ、又た庶務の成否會計の過不足まで其々之を御承知になりて、居らぬは、御盡力に不便であるなどの類てあり升。ソレ故是等の實況を今や御報告の其御支度も出來て居ながら、前申した様な譯で御座いますから、之を大畧に通言致して見れば、此婦人衛生會は段々盛んにして會員にも世間にも有益であるは二三の點に付て考ふれば直にわかる事です、茲に世間に害は少しも無い事を証するに、皆様方を始め多くの人々に段々廣く知れて續々入會者も殖ゑるを以て、非常な利益を與えて居るに相違ない。事が分明升。

次に本會の盛衰を知らんには、月々の雜誌の上で毎々會員の數への御報告になつて有りますから、略ぼ御承知で御座いませうが、中には稀に退會せし人や不幸にして死亡されし人も御座いますが、總じて退會する人よりは入會する人の方が多く、從て雜誌の數も増して參りました、此を見ても既に本會は漸々隆盛に赴くものと御承知下すつて宜しい、斯くの如く盛に成り且つ社會に對して利益の有ると云ふとが分りたならば、其次に本會はドレ丈けの庶務會計其他の運動をしたかと云ふに、其の報告は記臆の惡い頭から探り出すよりは、ソコ（張り出しを示し）に掛いて御座いますから、克く御覧を願ひたい、それに付きましても幹事さん方への、本會の爲め一切御盡力下すつた事を、會員の皆様方も御考へなすッたら宜しう御座いませう。」

右の報告に就而省れは是れまでに色々御運動が有りました中で、何か一番社會に對して實益を與ゐる手始めで有つたかと云ふに、是れは既に御承知の通り

、保育園を設立したのが殊に著るしい、其外細かく言つて見ると昨年私の病院（東京府本所病院を指す）の看病婦に前掛けを下すつた事など、續て有益なる事とも有りました、又保育園設立に就ても、いろく御配慮が有りましたが、ソレも今日迄の所は、雜誌に出て居ります、凡て御報告を雜誌に讓つて今日ハ申ましせん。」

其の序でを以て保育園の事に付き皆様に御相談否な或る希望と、もう一つの泣き言と、愚痴と、いろく捏て一言とし、此を前に御断申た通りお菓子代りに上げ様と思ひます、併し是れは幹事さんが愚痴を述べろと被仰るので有りませんが、只今彼方で色々事情を承ッて見れば、私が愚痴を述べ度くなりたのです、一体今日ハ總會で祝辞を述べなければ、ならぬ場合に、泣言ハ宜く無いから演題を掲げないで全く失題と願ひました、ソレ故言葉で「泣き言」と云ふ題だと申上げます。其泣言と云ふは如何なる事のと云ふに、保育園に子供が澤山這入ッて來て泣くのでは有りません、大人が泣くので御座います、御承知の通り、保育園設立に就ての其趣意方法等が大層宜しいから、續々皆さんが御贊成あすつたのは、今私が申さずとも、御自身の御心に御問ひなすッたなら、充分に解りませう、御贊成になッた故に保育園も設立するとが出來ましたです、出來ましたが其保育園と云ふものは、出來て大層喜ばしいやうなものでハ有るが、此喜びに付ても又一方に氣遣しきは今日の始末で有ります。」

物にハ總て「始め」「中頃」「終り」、と云ふものが必ャ有るに相違ない、又人間にしても生れて漸々成長し終りは穴の中に這入ッて仕舞ハなければならんので有ります、凡ろ爲し業を始めるには難きもあり易きもありて向ふ見ず何んても構はそに始むるならば

大層容易い又其始めた事が完全せぬうちに廢して仕まうのも容易い、縱令は私か最早人間を厭きたから廢止樣と思はゞ、今直にも人間を止める事が出來る、反之活て居ると云ふ事か六ケ敷イソレと同じて此婦人衛生會も今やめやうと御相談があれば、直ぐにやめるとが出來る。此卓上の「コップ」ヲ指し「コップ」ノ如きものも碎くる事も打こはす事も、容易い、併し是れを壞さないように保存するハ最も六ケ敷いとも考へる。併し是れを在りの儘で保存するハ尚ほ容易いが、此を保存しツヽ一層の美を添ふる樣に心掛くるハ實に難い事と思ふ。」で今保育園と云ふものも容易に立ち立ちましたが、今是をやめる事も亦た容易い、ケレ氏是を持續して行く事と其働きを大きくして行く事と、保育園に光を着ける事は頗る困難なる事で有らうと思ひます。如何にも困難な事では有るか併し良い方法を得時ハ之をば繼續して往く事も、充分に光を着ける事も容易に出來るに相違ない、然らばドウ云ふ良方法が有るかと云ふに格別の事でハあひ只一言にして盡す事が出來ませうと思ふ即ち、會員皆樣の一致と、御盡力とに因るものでが御座います先頃保育園の立ちまする前に、私が宗十郎町の私立衛生會の事務所で御話しを致した通り皆樣が一致あずッて、充分に御盡力なされは、必ず保續して往く事が出來る、又光輝を着けるとも出來ます、精神一度到つて何事か成らさらんです、併しなから一致もせず、御盡力もなければ、迚も永續するとは出來ません其外にモウ一ツ大切なる事は耐忍と云ふとで有ります。如何に皆樣か御集合になつて、御盡力なすつても其御盡力が忽ち消えて仕まう樣では、決して永く保持するとが出來ないから、能く皆樣か一致して、如何なる難義が有らうとも一緒に耐忍して往からうと云ふ御決心がなければはならぬと思

ひます。何事によらず耐忍と云ふ事が少しも無く一時は盡力しても其儘力も次第に薄らぐと云ふ様では始めハ大變大きくても決して其物の盛に赴く事の出來ないのは必然で御座います。又如何に一人で保育園の爲めに盡力し、如何に面到なる事が有つても忍耐して往かうと思つても、玆に會員和合して居らなければ、迚も出來ませぬ。それ故會員がドコ迄も一致して往かなければならんと云ふは、私の申すまでもなく皆様方の御心の中に記して被入るに相違ないと考へる。サウ私は考へるで御座いますが、併しながらソレがドウも考へ通りに往かぬのはドウ云ふ譯で有るか甚だ分らない事で御座います。保育園を立てます時は、皆様が大變御盡力なすつて立ちましたが、今日に至つて保育園を忘れて被入しやる方が有りハしないかと、傍眼でも思ひますから、幹事の方々ハ猶更時々の御心配が有ります何故サウ云ふ事が有るかと云ふに、一体御婦人方斗りでなく、凡て我々でも流行と云ふ、者ハ大變面白いもので、假令は御婦人方なれば此度ハ何う云ふ色何う云ふ形の着物が流行るとか、如何なる仕方の衣服或はドウ云ふ帶が好いとか、髪の結ひ方ハ圓いのが好いとか、四角のが好いとか云ふ様に、大騒ぎをやり、其流行が通り過ぎると、忽ち倦きて仕舞うので御座ります、併しながら其流行も程能くして被入やれば、倦きる事も少ないし、併し流行氣ハ後先見ずになり勝様です、又た流行と云ふものハ、例之は衣服の色の上ならば、黑い色藍い色赤い色とか云ふ如き主なる方に付きましては、割合に何時でも流行發衰は有りませんが多くの色の混して出來たものゝ餡糖色とか鶯茶とか云ふ色は、人の爲めに大變に好まれますが、又倦かるゝ事も多い、丁度皆様の御召物でも多くの色で出來た地合早く云へば、流行に走つた者は流行るかと思

へば直ぐ廢衰て仕まいますから直ぐ嫌氣に不用になり舛ソレを、程よくして被入しやれば、其御召物の永續する事が出來るに相違ない此保育園も其通り之を惡に邪推すれハ當時に義捐金と云ふ事が流行つて、學校の義捐金だとの、種々の會に金員を義捐するとか云ふ事か流行つた爲め、其流行に浮かされて
保育園の目的の良いか惡いかの判斷も無く、御賛成なすつたから、言ハゞ保育園ハ流行の爲めに出來たので眞に皆樣の御心から出來たのでハ無いかと想像され升、否〳〵な夫れも邪推て決して貴婦人方は左樣に野鄙ある流行氣を以彼樣なる大切の事業をは向見ずにハ、計畫なさる樣の義は毛頭なかつた譯て、眞實御熱心で御企てなすつたに相違ないと確かに信用致し升、眞に左樣あり升、故に万一にも保育園と云ふものハ、何所に建つて在るかとか、或ハ那の時の紅葉館の御踊りハ面白かつたが、併し保育園事業ハ面倒だとか又た彼處にハ何人子供が入園して居るかと云ふとも、御承知な方か會員方中一人てもな影法師でもありて往かんと思ひます、實に流行の爲めに濫りに精神を動なさる丶樣な人ハ、困難の局に當て萬事を所理すると杯は到底出來ない、流行好きの人は忽ち流行の過ぎ去つて仕舞うと同樣に、凡てが輕薄になりて仕舞う、左樣輕薄ある人はうら腹の言葉を口から出まかせに遣ふものにて 其事務に當る人に向つてハワイ〳〵と、賞め立て傍の人の處に行くとあれハドウも、良く有りません不贊成ですなと云ふ 是れは此會の如き一致の會合には決して有る間敷と存しますれど、假初めにも其樣の事がありては往けませんと思ひ升。流行氣に發りたつ事ハ矢張初めは盛んでも、終には忘れて仕舞ものです。併しなから此會の皆樣にハサウ云ふ事ハ無いに違いないから、ドウゾ前にも申した通り、皆樣と眞實に

御頭から出た一致で御盡力なさらんことを御心掛け有之度願ふ、若し一致が無かッたならば迚も大きいとは出來ない、假令て見れば一筋の絹糸ハ弱いが、千筋百筋の絹糸が集ると大變に強い物に爲りまして、貴婦人方か如何に之と斷ろうと思召しても、切る事の出來ないと同一ですソレと、同しで皆樣が眼に見へる樣な、手間を費して御盡力なさらずとも、互に助け合ひて御周旋なさる樣に御心掛なさなければ衛生會保育園等のみならず、皆な必ず盛大ニ赴くに相違ないで有りますから、初め御計畫になつた保育園には是非〱一致に御盡力なすつて、其上に耐忍を以て此保育園を持續して下さらなければならぬ、流行と云ふ浮ハ氣は捨て仕舞つて、幾度の年月如何なる時期を通り過ぎても、善き物の廢たらぬ如く、此事業の益々以て盛になる樣に〱、只又永遠に光輝を放つ樣に御心掛けなすつて御盡力なさらねばなりません、梅ハ寒を忍んで香氣を放ち竹は節に堪へて操を顯しますでハありませんか」

餘事はさて置き、保育園創立已來の大略の事を今御聞き申して、之を更にお話し申して見ますれば、保育園に集りました金は、合計五百四十二圓、其中出しました金ハ三百八十餘圓、殘金が百八十何圓かで御座います、而して此先きに此れ丈の殘金と多少の收額とを合して二年三年を持續すると云ふハ、實に困難で有る、永遠に繼續するは氣遣しい、ソレ故今の中に良い方法を立てなくてはならぬ之れにハ只今の收入をモウ少し殖すことが第一で有ります、之を殖すには入園兒を增すに如くハない、源水の滾々晝夜を舍ずと云へる、如く一滴でも、始終水が出て居りますれば又た其れか集りて終に大海迄も出來るで御座いますから、入園兒の收額增加すれハ今改めて義捐をするにも及ハす、況んや本會々の補助費もある

と聞きました故に會員の助けがあつてなるたけ子供か多く入園する樣に仕なければなりません、今の處では僅に四人であります、併し七月開園なして八月から入園を許したのてあるから先つ四人でも宜しか、一体保育園ハ最初の中に十人位い入園を許す考で立てなので有りますから、入園者が多くなれば入園料を些つと引き下げて低廉くするとが出來るソウするると御趣意の通り慈善か加つて來る入園者にも便利です、其お廉くなると同時に入園者は殖之るソコから始終御金の出て出入相償うて往つたなれば盛になるハ申す迄もない、非常に貴婦人方か此園に就ての恩徳をお布きなさる樣に成ります、啻に保育園のみならず、延いて社會に迄も大いなる利益を御與へなさるので有りますから、一時の流行の爲め心を動されないで將來に於ても、保育園の爲め充分に御盡力なすつて一人も多く小兒を御入れ被下樣に願ひます

。ソレから那の邊を「麹町五番町」御通行になりましたら保育園てハドウ云ふとをして小兒を育てゝ居るのと云ふ事を御覽んなすつて惡い事かありましたら御忠告も被下御叱言も被下樣に、御手間の懸らない處に御盡力被下つて、役員に力を添へて被下樣に願ます、然るに只皆樣は人の仕事をする樣に傍から見て居らッしやると、實に御情けないと云ふ者です其お情ない人か偶にハないてハ無いと聞きました、若しも世間の人に婦人衛生會でハ何か大きなとを、企てたけれ共一年か半年も立たぬ中に潰ぶれたと云ハれる樣でハ、役人の御方々の御不名譽のみには決して止らず、衛生會々員皆樣の御不名譽です方々一にも世人から此後不名譽即ち衛生會まて、アレ程に義捐を募てもまた大きなとをする樣な事を云ても半年か一年て捨て仕舞つたと笑ハれる樣ならば、寧ろ始めから遣らぬ方か宜しい、遣つた以上は何處迄も

仕遂げなければならぬ、でゝカ先程申上た出來るも損毀るも、容易なれ共、之を善く保存するか六ヶ敷譯で、其困難を耐忍なさるか貴婦人方てす皆様も會員に加つて被入しやる以上は御不名譽ハお否で有るから、一層御盡力下すつて、保育園か盛になるやうに御心掛けを願ひたいしたならば、具に御不名譽の反對に出でたる大層の御名譽か廻り來るだらうと、私は證券印紙を貼つて御請合申します必ず左様成りますから、一兩年の間御盡力なすツて、決して彼の園の事を忘れぬ様にあり度此に名方かあります、即ち朝御目覺になりましたなら、保育園々々々々と三遍唱へ、御飯を召食つたら又三遍、夜分御休みになる時も急度三遍御唱へになりまするを、必ず難有御利益の酬ッて參るに相違ない是位に保育園の事を御心掛けなされば、御武運長久々々々々今は昔しと遊つて御武運長久でれ、往けませんか、御家か御繁昌する御身も息災なる様に必ず御効顯か有りますに違ひあいから、三遍の唱名は御忘れあるべからずと此事を一寸御相談致します。　（完）

◎前號に掲載仕候高山紀齋君演説ハ都合により次號に掲載可仕候間此段左様御承知被下度候

本會録事

◎十二月納會　十二月五日第一土曜日午後一時ヶ麹町區五番町十五番地本會附屬保育園内に於て本年の納會を開く出席會員大凡四拾名宮下俊吉君「初生兒濃漏眼の豫防に就て」人生の最も不幸なるは不具ヵ不幸なるハなく不具の人たる盲人より憫なるはなし盲目は實に不幸の極端にして一國の經濟上に於ても亦非常なる損害なり此失明の原因は一にして足らずと雖とも概して婦人分娩の節白帶下に罹りたる時出産せしものに多しとす白帶下の症ハ世間勝ちある病

症にして其害毒又甚だしき者なり此病毒小兒の眼中に浸入する時は濃漏眼を起し遂に盲目するに至る者なり、之れが豫防をなさんと欲せば第一白帶下に罹りたる婦人は速に治療を施し産道を清潔にする事第二故あつて白帶下を治療すること能はざる場合ははは専門の醫師に就き分娩の際に臨んで有力なる消毒藥を以て産道を充分清潔にする事第三赤兒の取扱ひ方殊に其眼を大切になし出産後直ちに晒布にて初湯を遣ふ前に能く眼を洗ふ時は此病症を憂ふる事なし云々次に色川圀士君（お猿の人まね前會の續）の演説あり午後四時半散會り

◎謹告

◎今般岐阜愛知兩縣下に於ける大震災の慘狀は實に見聞に忍びざる有樣に有之候に付此際本會よりも應分の義捐をなし罹災者救助の萬分一に供せんこと最も可然儀と相考候處右は可成神速を要する事なるを以て總會員諸君姉へ御協議を可遂暇無之依て不得已役員等商議の上不取敢晒木綿百反を調達致し右兩縣知事へ宛送附し夫々配布方を依賴致置候茲に諸君姉の御徳義に訴へ多少に拘はらず御出金を乞ひ是を以て右仕拂に相充候樣致度御相談に及候處意外に御出金被下總計金百十一圓五十五錢相集り差引尙過剩有之不堪感謝候被害地根尾谷慘狀の如きは新聞紙上にも既に揭出有之候通り陸軍一等軍醫松本三郎君の同所を巡回せられ其慘狀を知遂せらるゝ事を承知致し候間役員協議の上加藤會長椿幹事同道にて其實況相尋ね候處實に慘怛たる狀況にて加ふるに腸窒扶斯及赤痢病等發生し漸次蔓延するに至りたるも山間の僻地食物に乏しく見過するに忍びず氏は携帶せる處の食物を悉く救與せし程の有樣なりしと幸ひ同縣知事及根尾谷村長も亦出京中の由に付右知事の照介により役員村長の旅宿を訪問せしに松本軍醫の說を相

異なるなく處頻りに本會の厚情を深謝せられ且種々談合之未鰹魚節四百本ミルク九十六罐送附致す事と相成去る廿六日滊車便を以て根尾谷樽見震災救濟支部へ宛發送し其配布方を依頼せり又過剩金の內三拾圓ハ愛知縣に於て震災こ罹りたる孤兒養育料として惠與仕候間左樣御承知可被下候

追而先般本會より岐阜愛知兩縣へ義捐物品送附致し候處挨拶狀左の通りに有之候間此段申添候也

愛知縣知事よりの謝狀寫

今回當縣下各地非常の震災に罹りたる慘狀御凉察被害地者へ救恤として晒木綿四十反義捐せられ候段感荷の至に候速に配當方可取斗候間然樣御承知相成度依て別紙受領証相添此段及御挨拶候也

明治廿四年十一月廿四日

愛知縣知事岩村高俊

大日本婦人衛生會
會長加藤鈴殿

追而岐阜縣へ傳達の分速に回送方可取計此段申添候也

○紙數限あるを以て受領証寫を掲載せず

岐阜縣知事よりの謝狀寫

今回縣下非常之震災に付罹災者爲救助左記之物品御贈惠相成深く鳴謝之至に不堪候右ハ早速分與方取斗可申候右義捐者へは挨拶ニ及兼候間御手數ながら宜御取斗被下度先は不取敢御挨拶旁申進候也

明治二十四年十二月十八日

小崎岐阜縣知事

大日本婦人衛生會
會長加藤鈴殿

記

一晒木綿　六拾反

◎今回大震災に付義捐せられたる金圓及其會員姓名左の如し

義捐者姓名（いろは順

金壹圓　諫早美代子
金五拾錢　池田甲子
金五拾錢　石崎久子
金壹圓　池田米子

會員外

金五拾錢　岩崎なを子
金五拾錢　嚴谷もと子
金五拾錢　嚴谷きみ子
金五拾錢　伊東ゆき子
金五拾錢　岩橋時子
金五拾錢　井上睦子
金三拾錢　伊藤喜美榮子
金三十錢　井原猪子

金壹圓　石崎鶴子
金拾錢　生駒たね子
金五拾錢　波多野鈍子
金四拾錢　長谷川仲子
金壹圓　濱尾作子
金貳拾錢　搞とせ子
金壹圓　原田時子
金五拾錢　原八重子
金七拾錢　濱田すて子
金貳拾錢　萩原直子
金拾錢　馬塲繼子
金三拾錢　伴ます子
金五拾錢　西川文子

金五拾錢　西邑節子
金參圓　西舛子
金五拾錢　西靜子
金五拾錢　西民子
金五拾錢　穗積歌子
金五拾錢　細川靜子
金五拾錢　本多せん子
金五拾錢　堀かう子
金壹圓　土井榮子
金貳拾錢　德富靜子
金壹圓　豊住好子
金貳拾錢　和田八重子
金壹圓　渡邊光子
金壹圓　川田光子
金五拾錢　神田熊千代子
金貳拾錢　川嶋安子

金壹圓　河津繁子
金貳拾錢　片山龜子
金壹圓　鹿嶋琴子
金五拾錢　樫村永子
金壹圓　加藤鈴子
金壹圓　河野せき子
金七拾錢　加藤つね子
金拾錢　川口もと子
金三拾錢　神山まさ子
金壹圓　河村稀子
金三拾錢　高嶺專子
金三拾錢　高橋こう子
金貳拾錢　代とめ子
金五拾錢　田村長子
金拾錢　高瀬みわ子
金貳圓　高木富子

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金壹圓　高石登美子
金五拾錢　高塚清子
金五拾錢　高田てる子
金壹圓　高木くら子
金三拾錢　丹波貞子
金拾錢　田中さだ子
金五拾錢　相馬睦子
金壹圓　曾根愼子
金壹圓　堤松子
金五拾錢　椿隆子
金五拾錢　佃うめ子
金五拾錢　坪井くに子
金三拾錢　辻さと子
金五拾錢　中村森子
金壹圓　長與園子
金三拾錢　中濱とし子

金壹圓　長井テレーゼ
金五拾錢　中野悦子
金五拾錢　長森ひで子
金三拾錢　内藤近子
金壹圓　南部隈子
金三拾錢　南部幸子
金貳拾錢　南部瑞芽子
金五拾錢　村岡久野子
金貳拾錢　馬嶋園子
金壹圓　浦島てい子
金壹圓　馬屋原ひさ子
金五拾錢　野邊地き子
金五拾錢　小鹿島筆子
金五拾錢　沖野重子
金拾錢　小野竹子
金貳拾錢　小倉竹代子

金五拾錢　大久保きみ子
金三拾錢　大森八重子
金五拾錢　大和田照子
金貳拾錢　岡田德子
金五拾錢　大森くめ子
金五拾錢　奧山とめ子
金三拾錢　岡田靜子
金壹圓　岡崎きよ子
金五拾錢　大野波留子
金七拾錢　大井まさ子
金參拾錢　緒方悦子
金參拾錢　岡山敏子
金貳圓　大澤作子
金參拾錢　尾崎いと子
金拾錢　久留りう子
金五拾錢　久保田八重子

金拾錢　串田てつ子
金拾錢　久米ふみ子
金壹圓　栗塚りやう子
金參拾錢　矢野れつ子
金壹圓　山縣友子
金參拾錢　山田そめ子
金壹圓　山川須滿子
金五拾錢　山本光子
金三拾錢　山岡勢ん子
金貳拾錢　無名氏
金五拾錢　山縣爲子
金拾錢　柳田てう子
金五拾錢　山川二葉子
金五拾錢　馬渡玉子
金貳十錢　松田信子
金五十錢　丸岡菊子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金二拾錢　松野さだ子
金貳十錢　松本竹代子
金壹圓　福羽禎子
金貳圓　古市こう子
金貳十錢　古澤こう子
金五十錢　古谷富子
金壹圓　福田きね子
金五拾錢　深堀あい子
金貳拾五錢　厚東雪子
金壹圓　兒嶋重子
金壹圓　河本かめ子
金四十錢　小泉まち子
金三十錢　小立ため子
金貳拾錢　別役ゆか子
金壹圓　青木安子
金貳拾錢　赤司鋼子

金貳拾錢　齋藤政世子
金壹圓　穴山とみ子
金五拾錢　安藤まち子
金五拾錢　相磯まさ子
金壹圓　足立淸子
金五拾錢　有賀うつ子
金五拾錢　青山孝子
金三拾錢　明石かえ子
金拾錢　秋間くま子
金五拾錢　佐々木梅子
金貳拾錢　澤邊廉子
金五拾錢　佐藤靜子
金壹圓　佐々木芳子
金五拾錢　榊原かや子
金壹圓　實吉速子
金壹圓　榊幸子

金三拾錢　榊璽子
金三十錢　榊貫子
金五拾錢　菊地猪智子
金五拾錢　北澤のぶ子
金貳拾錢　喜多山つせ子
金五拾錢　湯淺榮子
金五拾錢　三宅みち子
金壹圓　三井すて子
金三拾錢　（スキヤ丁）宮田けい子
金拾錢　宮田鶴子
金壹圓　三宅ふじ子
金壹圓　宮本らく子
金五拾錢　御厨とみ子
金壹圓　三井晴子
金壹圓　三井喜登子
金五拾錢　三浦東喜子

金壹圓　志賀八重子
金四拾錢　柴雪子
金五拾錢　白川か壽子
金壹圓　鹽澤よし子
金壹圓　下村ちを子
金九拾錢　鹽谷そね子
金壹圓　進みち子
金五拾金　土方龜子
金五拾錢　日高りき子
金壹圓　弘田ます子
金參拾錢　廣瀬りき子
金五十錢　平田えい子
金五拾錢　本尾しげ子
金貳圓　森岡きみ子
金十錢　森ろの子
金壹圓　仙波茂こ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金五十錢　關辰江子
金壹圓　鈴木まつ子
金三十錢　鈴木照子
金參拾錢　須田い素子
金五十錢　杉いそ子

◎義捐せられたる金圓及會員姓名右之通に有之候也決算後岡田み壽子「金五十錢」太田いく子「金五十錢」義捐金として差出されたり尚其外右同樣御申込に相成候方も有之候得共餘り未だ現金落手致し不申候間集金次第又々第三回義捐として被害地へ送附可致候也

◎右義捐の義に付御相談の爲め戸々參邸し奔走せられたる諸氏左の如し

麹町區　加藤鈴子　南部くま子　椿隆子　北澤信子
芝區　數人
小石川區　濱尾作子
神田區　岡田み壽子
赤坂區 麻布區　細川靜子
本郷區　榊幸子
京橋區　西升子
四ツ谷區 牛込區　馬渡玉子
日本橋 下谷淺草 本所深川　太田いく子

●今回大震災義捐金募集に就ては匆卒の際御相談漏れも可有之候へども右次第に有之候間宜敷御諒察被下度候、

●震災地へ送附仕候反物に就ては賛成會員齋藤澤吉君非常に盡力せられたるを以て精良の品質を送ることを得感謝に堪へず茲に掲けて聊か謝意を表し申候

●當號雜誌には震災義捐金に關し種々掲載仕候間講演僅に相成恐縮に存候、

●本會附屬保育園都合により今般麹町區一番町十二番地へ轉居仕候右は土地も高燥廣濶にして空氣の流通は勿論居室の數も以前に數倍致し居り毎月講談會等其他至極便利にて小兒保育に適當の家屋と被存候に付移轉することゝ相成申候間左樣御承知被下度候、

●保育園規則第十四條中改正

本會日増に盛運に赴き會員も次第に増加するを以て茲に入園科左の通改正仕候

第十四條　入園科は特等一ヶ月金七圓並等金五圓とす、

●去る十一月より本月に至る入會員宿所姓名左の如し

一　岡田ます子　南豐島郡澁谷村赤十字社病院

同人照介により

一　堀越たか子　宿所仝上

一　高木とよ子　宿所仝上

一　婦士まり子　宿所仝上

加藤會長の照介により

一　足立滿子　麹町區上六番町二十番地

一　須賀田きん子　芝區高輪北町

●本月中轉居せられたる會員宿所姓名左の如し

一　細川靜子　麹町區有樂町三丁目一番地へ

一　川鍋やす子　埼玉縣浦和宿へ

一　阿部優子　芝三田松坂町卅四番地へ

一　和田こう子　赤坂區青山へ

一　山田らう子　芝區白金三光町七十九番地へ

一　山崎幾代子　芝區神明町二十五番地へ

一　宮本仲君　神田區雉子町三十一番地へ

一　宮本らく子　同所へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎稟告

本園に於て保育兒の欠員あり依托せんとする者は來園の上規則書熟覺あるべし

麹町區五番町十五番地
大日本婦人衛生會附屬
保育園

◎衛生食物研究會假規則

第一條　本會ハ衛生食物研究會ト稱シ假ニ麹町區五番町十五番地保育園内ニ置ク

第二條　本會ノ目的ハ價廉ニシテ滋養ノ多キ食物ヲ擇ミ和洋折衷ノ調理ヲ研究シ會員互ニ是ヲ日々實際ニ行ヒ專ラ衛生ニ効驗ヲ現スヲ旨トス

第三條　何人ヲ問ハス本會ノ目的ヲ賛成入會ヲ望マル諸姉令孃ハ直ニ入會スルヲ得可シ

但入會ノ際器具料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

第四條　本會ハ當分毎月三回第一第二第三金曜日午後一時ヨリ開會ス

但出席ノ有無ハ開會一日前ニ報知アルヘシ報知ナキハ出席ト見做スヘシ

第五條　本會ヘ參會スル者ハ一回金貳拾錢ヲ會費トシテ納ム可シ若シ會員外ニシテ臨時出席ヲ臨ムル時ハ來會ヲ許ス

但會費金貳拾五錢持參アルヘレ

遞信省認可

巖本善治妻譯

小供のよみ本

小公子

（リツトル、ロード、フオントルロイ）

新版來る 少年文學 十日發賣 書

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遙する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさんあの木は小さい時誰かに蹈れたのですかイ、と申たとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるハ、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼兒に限り升す。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故此珍重すべきまろうどを尚一層優待したいと切に願ふ者です」と斯る主意にて譯成る。原著ハ近頃英米に轟き渡り子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、稱賞大方ならず、改版十數回、且尙ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ紙數二百八十頁密書十四葉入の大本として今日世に進め玉へり。

一冊正價三十八錢。郵税八錢也

發兌元 東京市下六番町六番地 女學雜誌社

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候

會費御不納の方ハ至急事務所まで御送附被下度爲替ハ總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衞生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員 太田いく子
鈴木まさ子

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地
私立大日本婦人衞生會

編輯兼發行人 東京麹町區三番町六十七番地
巖本善治

印刷人 東京麹町區上三番町十八番地
八木吉六

下谷文明堂印刷